

湖北

一人暮らしの高齢者の見守りや健康づくりの支援にロボットを活用する実証実験を長浜市が9月17日から11月16日まで続けている。コロナ禍で訪問や帰省による見守りの機会が減っている中、ロボットなどICT機器を活用した方法の有効性や課題を明らかにするのが狙い。

実験は市内の75歳以上の10人を対象に実施中。NECが開発したコミュニケーションロボット「Paperoi」が一人暮らしの高齢者支援の一助になれば」と期待を



実証実験で活躍中の「見守りロボ」＝長浜市提供

長浜 高齢者見守りロボ 市内で実証実験中

（パペロアイ）（高さ約30センチ、幅約20センチ、重さ約2キログラム）と付属のモニターを使用し、ロボットに話しかけると天気予報やニュースなどを教えてくれるほか、離れて暮らす家族と音声や写真のやりとりができる。また、高齢者の転倒予防のために市が推奨している「きやんせ体操」の動画も視聴できる。

文化観光の推進目指す 湖国フィールドミュージアム（長浜）

長浜市や長浜観光協会、長浜商工会議所など9団体が参加する「湖国フィールドミュージアム・長浜フォーラム」が9月24日、設立会議を開いた。博物館などの文化観光拠点を後押しする「文化観光推進法」の支援対象となることを目指し、観光客誘致の方策などを盛り込んだ地域計画を来春にも国に申請する。



9団体の代表者が出席して開かれた設立会議。若本和夫（長浜市）が挨拶した。【長浜市提供】

湖東

彦根 パッケージデザイン 被災地支援で県大生

寄付返礼品のデザインをした（右から）早崎さん、谷野さん、藤原さん



東日本大震災で被災した宮

城県南三陸町田の浦地区を支援している県立大生3人が、地元特産ワカメのパッケージをデザインした。歯ごたえのある肉厚の塩蔵ワカメ（150グラム）で、同地区へ寄付（10000円）した人に、返礼品として贈られる。

これまで県立大生のグループは毎月の訪問、年1回の運動会開催などで同地区と交流してきたが、今年3月からは新型コロナウイルスの影響で、支援が停滞してしまった。そこで海産物の返礼で寄付金を募る「海の恵みおすそわけファンド」活動に力を注ぐことにした。

エイジレス章 彦根市の柴田謙さん（彦根）



大久保市長からエイジレス章の盾を受け取った柴田さん（左）

年齢にとらわれずに活躍中の高齢者を表彰する内閣府の「エイジレス章」が、彦根市大藪町の柴田謙さん（76）に贈られた。9月25日、彦根市役所で大久保貴市長が記念品の盾などを手渡した。

柴田さんによると26年前、近所で街灯や植木鉢が割られる事件が相次いだという。これをきっかけに住民同士でパトロール活動を始めた。20年前には路上駐車が邪魔になり、消防車が火事現場に近づけないというトラブルもあった。その後は地元小学校区全体で「迷惑・違法駐車追放運動」も推進。現在は青パト7台に加え警察車両、消防車も出動して、年2回のキャンペーンをしている。

贈呈式で大久保市長は「人生百年時代。感染症には気を付けてますます活躍してください」と激励した。

【彦根通信部・伊藤信司】